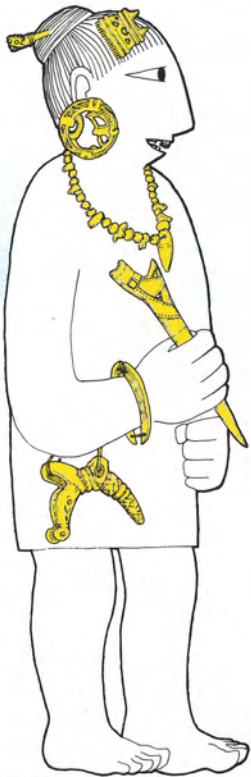


い・せ・ぎワールド in 前橋 2013



みみかざり
耳飾り (安通・洞No.2遺跡)



(町田1979より)



↑ 出土した石鏃(安通・洞No.2遺跡)



↑ 発掘調査作業の様子(安通・洞No.2遺跡)

じょうもんじだいのこうき
縄文時代後期のアクセサリーを身に付けた人物。縄文時代の人たちも私たちと同じように耳飾り(ピアス)や髪飾り、ネックレス、プレスレットなどでファッションを楽しみました。

あんづう ほら いせぎ かすかわまちむらさわ あたら どうろ ほくつちようさ おこな じょうもんじだいのどせいひん せきせいひん
安通・洞No.2遺跡は粕川町室沢にあります。新しく道路をつくるために発掘調査を行いました。縄文時代の土製品や石製品がたくさん出土しました。耳飾り(ピアス)は形や大きさが様々で、朱で赤く色がつけられたものもありました。獲物を捕るために使われた石鏃(矢の先端部分)、木を切るために使われた磨製石斧、食べ物を加工するために使われた石皿など出土しました。

平成24年度の発掘調査

今年度も前橋市のたくさんの場所で発掘調査が行われました。発掘調査では、住居・土坑・溝などの生活の跡や、おわん・かめ・つぼなどの道具がたんさん見つかりました。見つかったものをよく観察すると昔の人々がどのようにして生活していたかが分かります。



蒼海(40)



蒼海(41)

↑ 発掘調査作業の様子

もとそうじやちく 元総社地区には、奈良・平安時代に国府(今でいう県庁)が、室町時代には蒼海城がありました。当時の政治の中心地でした。

もとそうじやおうみいせきぐん 元総社蒼海遺跡群(40)~(50)

こうざけこくふちようさ 上野国府調査

ろっくいせきぐん 六供遺跡群No.7

★ 古墳時代の竪穴住居跡が12軒見つかりました。土坑からは多くの土器が見つかりました。

★ 9つのトレンチを設定して調査しました。

↑ ぜひ見学に来てね。



蒼海(43)

↑ 一辺が10mもあるとても大きな住居跡



蒼海(44)

↑ 粘土を採った穴がたくさん見つかりました。



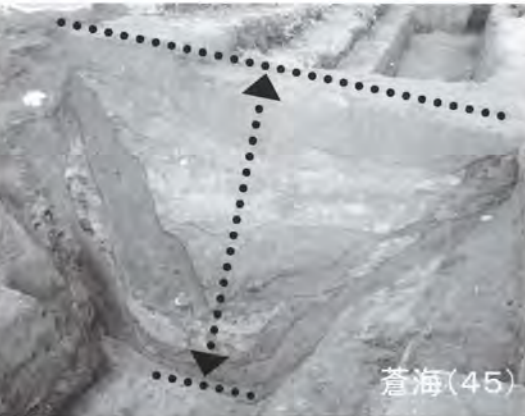
↑ 腕輪状の石製品が出土しました。

あさくらこうぎやうだんちいせきぐん 朝倉工業団地遺跡群No.2・3

★ 古墳時代と平安時代の水田跡が見つかりました。また、昭和20年の空襲で使われた焼夷弾が見つかりました。



↑ 昭和20年8月、B-29爆撃機から投下された焼夷弾



蒼海(45)

↑ 蒼海城の堀跡が見つかりました。堀の深さは4m以上あります。



蒼海(50)

この調査区からは縄文時代(約1万年前)の竪穴住居跡1軒、古墳時代から平安時代の竪穴住居跡が18軒見つかりました。写真は平安時代の竪穴住居跡

!!ひと言プラス!!

1439年(永享11年)、総社長尾氏は、戦乱の時代にこの地を守るために、蒼海城を築きました。大きさは上野国府を更に広げ、西の築谷川、東の牛池川を外堀としました。総社長尾氏の後、諏訪氏、秋元氏が居城としました。



あんづら・ほら いせき 安通・洞No.2遺跡



↑ 直径が6cmもある大型の耳飾りが出土しました。



↑ 色々な大きさの石鏃(矢じり)が260個出土しました。



↑ 蛇紋岩という石をけずったりみがいたりして作られた珍しい勾玉が出土しました。

縄文	弥生	古墳	奈良	平安	鎌倉	室町	安土桃山	江戸
----	----	----	----	----	----	----	------	----

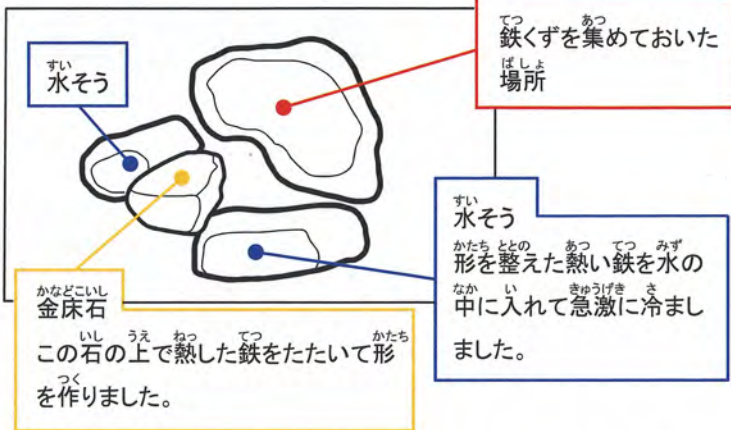
平成24年度 埋蔵文化財発掘調査一覧		
遺跡名	所在地	主な時代
あさくらこうぎやうだんちいせきぐん 朝倉工業団地遺跡群No.2・3	しもさとりまち 下佐鳥町	こふん 奈良 へいあんじだい 古墳、奈良・平安時代
あんづら・ほら いせき 安通・洞No.2遺跡	かすかわまちろくさわ 柏川町室沢	じようもんじだい 縄文時代
こうざけこくふちようさ 上野国府調査	もとそうじやまち 元総社町	なら へいあんじだい 奈良・平安時代
もとそうじやおうみいせきぐん 元総社蒼海遺跡群(40)~(50)	もとそうじやまち 元総社町	こふん 奈良 へいあんじだい ちゆうせい 古墳、奈良・平安時代、中世
ろっくいせきぐん 六供遺跡群No.7	ろっくまち 六供町	こふんじだい きんせい 古墳時代、近世

平地に築かれたお城としては、蒼海城が群馬県内で一番古いお城だよ。

蒼海(40)



かじ いこう
鍛冶遺構



鍛冶...砂鉄を高温で溶かし、それをたたいて鍛え、様々な形の鉄製品を製作すること。

蒼海(41)

☆ 古墳時代から平安時代の住居跡がたくさん見つかりました。金のついた灰釉陶器など珍しい遺物が出土しました。



↑ そこ 底に金のついた灰釉陶器



34号住居跡

↑ 出土したときの様子



灰釉陶器とは、植物を焼いた灰を水に溶かしてできた液体をかけて焼いた土器のこと。奈良・平安時代に作られ、役所やお寺で使われたよ。



← 2つの大きな甕が直立し、たまたま出土しました。

52号住居跡



こうづけこくふ
上野国府について



☆上野国府は、古くから元総社町の総社神社周辺にあったと考えられています。近年の発掘調査で総社神社の東の牛池川から人形や「国厨」や「曹司」と書かれた墨書土器がたくさん見つかりました。また、関越自動車道を造る時の発掘調査では国府の神社跡が発見されました。当時使われていた文房具なども発掘されています。これらのことから、総社神社から関越自動車道の一帯が、国府の範囲と推定されます。

☆現在、前橋市教育委員会では上野国府の解明を目的に、元総社蒼海地区で発掘調査を行っています。

ようごかいせつ
用語解説

- 【国府】 国司が儀式や政治を行った建物や役人が働いていた役所、役人の家、兵士の宿舎、市場、学校、一般の人々の家並みなどを含む全体の総称。
- 【国厨】 役人の食事を提供する台所の施設。
- 【曹司】 役所の建物の総称。

今年度の調査



← 作業の様子(16トレンチ)



↑ 調査区(8トレンチ)



↑ 奈良時代と考えられる溝跡(13トレンチ)

●問い合わせ●



平成25年3月31日発行 前橋市教育委員会文化財保護課
前橋市三俣町二丁目10番地2 電話027-231-9875・9531 FAX027-231-9862
<http://www.city.maebashi.gunma.jp/>